地域公共交通確保維持改善事業（新モビリティサービス推進事業）・事業評価総括表

令和5年2月22日
北海道運輸局

評価対象事業名： 令和3年度　新型輸送サービス導入支援事業（AIオンデマンド交通の導入）

①補助事業者	②事業概要	補助事業者における事業評価結果					地方運輸局等における二次評価結果	備考
		③事業実施の適切性		④目標・効果の達成状況		⑤事業の今後の改善点	評価結果	
十勝バス株式会社	人口減少・モータリゼーションにより、バスの利用者は減少傾向にあり、さらにコロナウイルス蔓延による移動制限と生活スタイルの変化により、今後は現状の定期定路線便にとらわれず、各地区や時間帯の実態に応じたサービスの形態が必要であると思慮し、デマンド交通にAIオンデマンドシステムを導入。同新形態の運行を令和4年4月に開始し、導入前と比較し利用者は増加傾向にある。	A	既存デマンド交通の運行エリア拡大に伴い、AIオンデマンドシステムの導入を令和4年3月に設定。3月にシステム設定完了。4月より同システム機能を利用しての運行を実装。	B	（交付申請時の目標値） 1日平均3.5人（申請当時）×3（エリアを約3倍）=10.5人×2倍（自由度拡大）≒20人 （実績） 1日平均 10月：7.2人 11月：7.2人 12月：10.0人 ◎平均値については大幅に未達 1日最高人数　21人 ◎最高人数については達成	サービスの中心対象エリアとなる地区に周知を徹底する。現状、存在の認識はあるが、一般路線バスとは違う新たな乗り物となるため、一度体験し、価値を理解していただく必要がある。現在の利用者も、利用した顧客からの口コミによる紹介が多数であるため、同地区にて当サービスに限らない住民との交流会やスマホ教室を実施し、移動機会の提案とその他取り組みとの相乗効果で周知を計っていく予定。 またサービスエリア内の目的地と連携し、案内や、デマンド交通を利用して訪れた場合、目的地で特典が受けられるなどの企画を検討する。	・自己評価のとおり、事業は適切に実施された。 ・今後、周知活動による地域への浸透を図るとともに、利用者ニーズに対応したサービスを実施することで利用者数の向上を期待する。	